

「教育と公共」研究部会（第4回）

日時：2019年7月12日（金）13:00～16:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・川上智子

欠席：金沢千秋

内容：（1）上野正道研究員報告：教育と公共性を再考する

◆グローバル化時代の教育と公共性

- ・19、20世紀型の学び：知識・思考・価値・ルール・世界観が決まっている
- ・21世紀における学び：知識の高度化・複雑化・流動化、新たな世界観を協働し創造転換する学校と学び
- ・1980年代後半における学校批判の隆盛：教育の「深刻な危機」
詰め込み教育から新自由主義による再編（自由化・民営化・規制緩和）→学校の公共性と民主主義の危機
 - *学習指導要領改訂：1989年「新しい学力観」、1998年「生きる力」新たな学びと学力への転換「知識基盤社会」
- ・OECDによる学習到達度調査→グローバルな国際標準学力の育成（2008年学習指導要領改訂）
- ・2010年代には生徒の幸福度（well-being）調査が始まる→関心や意欲など情意面の評価（点数化すること）に関する問題
 - *子どもを取りまく社会的条件の変化
 - *学校と労働市場の関係の変化＝工業社会から知識基盤社会への移行
 - *社会的格差と貧困の拡大：子どもたちの将来の見通しの不安定化、不透明化、リスク化
 - *「生きる力」とは？ 「自己責任」の最大化

◆デューイの教育論と公共性

- ・シカゴ大学実験学校について

◆民主主義と教育を再考する

- ・ケネス・ストライク：「コミュニティとしての学校」「スモールスクール」
- ・ネル・ノディングズ：「ケアリング」 民主主義とケアの教育へ
- ・マキシム・グリーン：「アート」「創造性」から「民主主義」の学校再生
- ・デボラ・マイヤー：「健全な民主主義の基礎をなすとしたらそれはすなわち学校の基礎でなくてはならない」
- ・ガート・ビースタ：「ディセンサス」にもとづく「公共的な対話」を促進

- ・次回研究会は、8月9日（金）13：00～

藤井研究員は執筆論文『『教育の公共性』って何なの？』（『教育学 21 の問い』）所収を中心に。

浅井研究員は『公共的なるもの』の講読を予定

- ・今後の研究会と発表予定

9月13日（狩野研究員・仲田研究員）、10月11日（田嶋研究員・上野研究員）。いずれも13：00～

上野先生メモ

教育と公共性を再考する

学校公共 教育哲学

第4次産業革命≡society5.0

グローバル時代の教育と公共性

19, 20 世紀型の学び：知識・思考・価値・ルール・世界観が決まっている

21 世紀における学び：知識の高度化・複雑化・流動化、新たな世界観を協働し創造

→創造的思考・批判的思考・探求的思考・協働的思考

協働＝コーポレーション、コラボレイティブ

(共同＝アソシエーション)

*浅井先生より 19, 20 世紀型典型のデューイの公共性を今扱う意味とは

→デューイの公共性をどのように更新していくか、という視点

- ・バウマン「不安定で不確実な社会」
- ・日本は近代化が後発国のため、英独仏をそれぞれに取り入れた
- ・子どもの教育とは：白紙にプリントしていくことではない
- ・「学習権」は権利だが、「就学」については強制？

転換する学校と学び

- ・1980 年代後半における学校批判の隆盛：教育の「深刻な危機」

詰め込み教育から新自由主義による再編（自由化・民営化・規制緩和）

→学校の公共性と民主主義の危機

日英米（+中国）も「危機」と言われたが、英米の「危機」は日本とは逆

日本 詰め込み型 ⇔ 英米 低学力

日本は不足を埋めていくうちに過剰と言われるようになった

新たな学びと学力への転換

- ・OECD による学習到達度調査→グローバルな国際標準学力の育成（2008 年学習指導要領改訂）

→学びの意味と対話の喪失：数学・理科への興味：最下位

授業でのディベート/課題について話し合いがある：最下位

「科学の楽しさ」指標で平均以下

関心・意欲は 30 年たっても変わらず低いまま

2010 年代には生徒の幸福度（well-being）調査が始まる

→関心や意欲など情意面の評価（点数化すること）に関する問題

2000年代に指導と評価の一体化

〈ルーブリック評価〉

デューイも同じように言われるが「教材と指導」の一体化であり、評価は切り離していた

日本では京大が推し進めた？ いろいろ諸説あり

ルーブリック評価も元々は評価は切り離されていた？

◆デューイの教育論と公共性

シカゴ大学実験学校について

デューイ 興味論（ヘルバルト派）VS 努力・訓練論（ウィリアム・ハリス、ヘーゲル）
に二分していた

◆民主主義と教育を再考する

- ・ケネス・ストライク：「コミュニティとしての学校」「スモールスクール」
- ・ネル・ノディングズ：「ケアリング」 民主主義とケアの教育へ
- ・マキシム・グリーン：「アート」「創造性」から「民主主義」の学校再生
- ・デボラ・マイヤー：「健全な民主主義の基礎をなすとしたらそれはすなわち学校の基礎でなくてはならない」
- ・ガート・ビースタ：「ディセンサス」にもとづく「公共的な対話」を促進

8月9日 上野先生 欠席

10月11日 藤井先生 欠席